

## 第6学年 社会科学習指導案

1. 日 時 令和元年12月6日(金) 5校時
2. 単元名 「みんなの願いと政治の働き」(全11時間 本時11時間目)
3. 単元目標

身近な生活から政治の働きに興味・関心をもち、国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していることを捉える。また、国民主権や議会政治の働き、選挙の意味、租税の役割、三権相互の関連など、我が国の政治のしくみを捉え、社会の一員としての意識を高める。

4. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」  
手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり  
高学年ブロックテーマ「仲間への理解、自立する自分」  
・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿  
・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

### (1) 児童の実態

#### <本学級の子どもたち>

積極的に物事にに関わり、**仲間と一緒にあれば多少困難だと感じていることにも向き合うエネルギーのある子どもたち**である。人と関わることが好きで、海外や他県から小学生が来校した際には、物怖じすることなく交流を楽しむ姿が見られた。一方で、場にふさわしくない振る舞いや自分勝手な言動が見られるなど、**他者意識が希薄な児童が少なくない**。

学習場面でも**活発に意見交換する雰囲気があり**、みんなで学ぶことに積極的な子どもたちである。しかし、自ら問いを見つけ、その解決に向けて主体的に学ぼうとする児童もいれば、与えられた課題に向き合うことが難しい児童もいるなど、個々の取組状況には大きな差がある。学習内容の理解についても、同様の傾向がある。そういう中で、**わからないことを「わからない」と言える児童がいること、周りがそれを当たり前として受け入れていることはクラスの財産**であり、それが前向きに学ぼうとする雰囲気を支えている。

社会科の歴史の学習では、人物に焦点を当て、子どもたち自身の問いを基にして学習を進めてきたことで、多くの子どもたちが「歴史の学習は楽しい」と感じていた。一方で、政治の学習となると、焦点を当てるのは、人物ではなく集合体としての組織や制度などになっていく。歴史の学習を進める中で、徐々に「人物」から「幕府」「朝廷」「政府」「人々」といったところへ焦点を当てることも増えてきたが、やはり、様々な要素が複雑に入り組んだ組織について**多角的に思考していくことに難しさを感じている児童も見られた**。

**政治の学習に対する子どもたちのイメージは「難しそう」**である。世の中を支えているものが政治であり、税金によって実現している行政サービスを享受しながら自分自身が暮らしているのだということを実感している児童は少ない。税金の仕組みや選挙の大切さを学ぶ中で、国民が協力し合い生活の安定と向上を図っていることを理解していくことにより、**日常生活においても他者への配慮、仲間を理解することや自分の思いを表現することの大切さ**等につなげていきたい。

#### <聴く・話すについての指導>

「聴く」については、仲間の意見や説明に対して「なるほど」「ああ、そういうことか」といった「温

かい反応」が話し手を気持ちよくし、「それっておかしくない?」「でもそれってさ…」といった「批判的な聴き方」が学習を深めていけるようにしたいと願って指導を重ねている。その中で、徐々に「**温かい反応」「批判的な聴き方」を上手に使い分けながら話し合いに参加**している児童が増えてきた。彼らの反応やつぶやきを拾って価値付け、広げてきた。「話す」については、「ちょっと黒板にかくね」と言いながら、「ここまでわかる?」と呼びかけて自分の考えを説明するなど、**聞き手を意識して話す児童が増えてきた。**

また、**能動的に聴く**一つの姿として、「こっち向いて話して」「もう少し大きい声でお願い」といった声が聞かれるようになっていく。また、話し手が自分の考えを述べた後に「みんなの意見も聞いてみたい」と呼びかける場面もあった。聞き手も話し手も育ちつつある。

これらに加え担任としては、挙手はしないが、**つぶやくことで学習に参加している児童や、友だちの意見をよく聴くことで表情が変わる児童を意図的に指名することで、彼らの反応を価値付け、広げていき、自分の考えを述べることの大切さを実感してほしいと願っているし、個々の思いがクラス全体のものになることの喜びをみんなに感じてほしいと願っている。**

#### <これまでの関わり合い・ひびき合い>

本校の合い言葉「ひびき合う三の丸小学校」を意識している児童は多いが、この合い言葉を支える4つの要素「考える」「聴く」「伝える」「関わる」のうち、特に「伝える」に課題がある児童が目立つ。学級会など、学級全体での話し合いでは、積極的に話したい一部の児童の意見で進んでしまうことも少なくなかった。あとで振り返りカードなどに「本当はこう思った」などと書かれていることもあった。「恥ずかしい」とか「誰かが言ってくれるだろう」とか、あるいは、「私はそういうキャラじゃない」といった個々の思いはあるだろう。学級の全員が発言することが必ずしもよいこととは捉えていないし必要もないと考えているが、「意見は伝えなければみんなが高まることができない」ということを伝えてきた。

一方で、**解決したい問題が明確であり、さらに、それを切実に解決したいと思っているときには、多くの児童が自分の意見を述べることができる。**運動会のなかよし6（縦割り班種目）やわくわくハイク（縦割り班遠足）に向けての準備では、普段は控えめな児童がグループの中心になって話し合いを行ったり、ほとんど発言することのない児童が積極的に質問して自分の役割を確認したりといった姿があった。

これは、学習場面でも同様である。社会科の小田原北条氏の学習では、子どもたちが学ぶ中で問いが生まれ、子どもたち自身が解決したい問題となっていった。多くの児童が自分なりの考えを述べ、他者の考えを認めつつも、自分の考えを大切に作る姿があった。また、理科のてこの学習で小グループに分かれて問題解決を行ったときには、大きめのホワイトボードを一つずつ用意することで、そこに頭を寄せ合い、説明したり質問したりして自分たちなりの解を導く姿があった。

本校の合い言葉は学習場面だけのものではない。子どもたちの日々の生活においても、子どもたちから生まれる問いを**みんなが解決したい問い**とするとともに、**個々にとっても切実な問い**とし、子どもたちの生活を高め合っていてほしいと願っている。そのためにも、まずは普段の授業改善に努めているところである。

## (2) 単元と指導

### <単元について>

人物に焦点を当てて学んできた歴史に比べて、人物が見えづらい幕府や政府といった漠然としたものが政治を行うということは、子どもたちにとって捉えづらいものである。小田原市が小学校にエアコンを設置したことや10月に消費税が増税されたことなどについて、子どもたちが話題にすることはあったものの、政治とのつながりを意識したものではなかった。本単元では、実際に市役所の職員や市議会議員に出会うことで、誰がどのように行政に関わっているのか、実感を伴った学びとなるように考えている。

本単元は、学習指導要領の内容(1)「我が国の政治の働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」を受けて設定している。内容の取扱いには、議会政治や選挙の意味、三権相互の関連や租税の役割などについて扱うことと、国民としての政

治への関わり方について多角的に考えて自分の考えをまとめることができるように配慮することと明記されている。しかし、そのしくみを調べて整理し、知識として身につけるのでは、「**公民としての資質・能力**」の育成には不十分である。

子どもたちが自らの暮らしの中に政治とのつながりを見出し、見学・調査したり各種の資料を調べたりすることで我が国の政治のしくみについて理解し、興味・関心を高めていけるように単元を構成している。消費税の増税は子どもたちにとって身近な問題だと考えられる。また、**選挙の投票率の低さは選挙の大切さを学んだ子どもたちにとって衝撃的なもの**だろう。租税について生まれてくる疑問や日本の投票率の低さなど、簡単には解決できない問題について議論し、追究する中で、租税の大切さや選挙の大切さを実感していく。そして、**政治への関心を高める**とともに、自分は今どうするのか、将来どうしたいのかといったことに考えを巡らせ、社会の一員としての自分に気付いていくことを願っている。

#### <指導について>

政治と自分の暮らしを結びつけて捉えているとはいえない子どもたちではあるが、消費税増税の折には税金について雑談する姿が見られた。無自覚のうちに生活の中に政治的な物事が入り込んできていることがうかがえる。夏休み明けには、平塚市が小学校にタブレット端末の導入を決めたことを話題にする児童もいた。「10%は高いよ。下げてほしい。」とか「ぼくもタブレットほしい。」といった声が聞かれたが、その思いをどこにもっていけばよいのかということを考える姿はなかった。

そこで本単元の導入では、「もっとこうだったらいいな」という子どもたちの素朴な思いから、「一人一台タブレット端末がほしい」という願いを取り上げることにした。すでに体育学習や日常生活の中で使っているタブレット端末の便利さを知る子どもたちにとって、「誰に言えばこの願いを叶えてもらえるのだろうか？」という思いは子どもたちの共通のものとなるを考える。自分たちの願いを叶えるために、小田原市に着目して調べていく。人と関わることの好きな子どもたちだからこそ、資料だけではなく、市役所の職員の方や議員の方から直接話を聞くことで自分の暮らしと政治の関わりを捉えられるようにしたい。そこから、市民や国民の願いをかなえるための政治の働きに目を向けていけるようにする。

市政を学ぶ中で租税の役割についても学習する。子どもたちが知っている税金といえば消費税だが、それ以外にも様々な税金を納めていること、それがさまざまな行政サービスに使われていることを知ることによって、税金の大切さに気付くと考えられる。場合によっては、今年の10月からの消費税増税について個々の思いを語り合う場が設定されるかもしれない。さらに、その税金の使い道については、私たちの代表である国会議員や市議会議員が話し合っていて決めていることから、議員を選ぶ選挙がいかに大切なものなのかを学ぶ。そして、「**ちゃんとした議員さんを選ばなければならない。**」という思いをもつはずである。さらに、実際に模擬投票をすることで、選挙の意味と投票することの大切さ、難しさを深く学べるようにしたい。

そんな子どもたちが出会う事実が、日本の選挙投票率である。多くの子どもたちはその低さに驚き、「なぜ投票に行かないのだろうか？」と疑問をもつはずである。その理由を知る中で、さらに、「**投票率を上げなければ。**」と考える児童が多く出てくると考えられる。一方で、「割合の問題だから投票率を上げる必要はない。」とか、「ただ投票率を上げてても仕方がない。」といった意見も予想される。そこで、「本当に投票率を上げた方がよいのだろうか？」という問いが出てくる。このとき、若年層の投票率の低さに出会ったり、選挙で投票する意味について話し合ったりすることで、「やはり投票率を上げた方がよい。」と切実感が増すと考えられる。

そうして生まれる子どもが解決したい問題は「**どうすれば投票率を上げられるだろう？**」である。**私たちの代表として、国民や市民の願いを叶える政治を行う議員を選ぶ選挙の意味、投票することの大切さを深く学んだ子どもたちだからこそ、この問題を切実に解決したいと思うはず**である。本時では、投票に行かれない人への対応よりも、行かない人への対応を中心に話し合うようにする。そして、**投票率の低さに問題意識をもって話し合う中で、政治に関心をもち選挙の大切さについて考えを深め、投票することへの関心を高める姿**をひびき合いの姿とする。賞罰的な意見から話し合いを焦点化し、必要に応じて資料を提示するなどして、何のために投票するのか、大切なことは何なのかを子どもたちが深く考える時間にしたい。

単元目標

身近な生活から政治の働きに興味・関心をもち、国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していることを捉える。また、国民主権や議会政治の働きや選挙の意味、租税の役割、三権相互の関連など、我が国の政治のしくみを捉え、社会の一員としての意識を高める。

もっとこうだったらいいのにな

- ・遊具がほしい
- ・パソコンを新しく
- ・机やいすを新しく
- ・教室に電子黒板を
- ・男子にも更衣室を
- ・タブレットをみんなに
- ・自転車で学校に来たい
- ・もっと休日を増やして

一人一台タブレットがほしい!

- ・一人一台タブレットがある学校もあるって。
- ・平塚市はタブレットの導入を進めているらしいよ。
- ・文部科学省は2020年までに一人一台って言ってるらしいけど、難しいんじゃない?
- ・すごくお金がかかるんじゃない? ・平塚市の場合、全員じゃないけど1か月で208万円だって。

誰に言えばタブレットを使えるようになるの?①

- ・先生じゃ無理でしょ。
- ・校長先生ならできるかな?
- ・神奈川県の人なんじゃない?
- ・知事さん?
- ・平塚市ってことは、小田原市の人に言えばいいんじゃない?
- ・小田原市の誰に言えばいいの?
- ・市長さんとか?
- ・「議員さん」で聞いたことあるよ。
- ・そもそも市役所の人ってどんな人がいるの?

自分たちの願いと政治の働きに関心をもち、話し合おうとする【関】

市役所で働く人々の役割や立場を整理する。

小田原市の誰に言えばいいの?②

市長	市議会議員	市役所の職員
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の代表者 =市民が選んだリーダーとして、大切な仕事をする。</li> <li>・市民の要望を市の政策として具体的に予算や条例の議案をつかって議会に出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の代表者 =市民全員が集まるのは難しいので、市民が選んだ代表者として会議等、大切な仕事をする。</li> <li>・お金の使い道を決める。</li> <li>・お金が正しく使われているか、仕事が正しく行われているか調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境、安全、福祉、教育等の仕事内容で分けられている。</li> <li>・市民の意見を調整しながら市民の願いを実現するための計画を立てる。</li> <li>・市議会の決定を受けて、計画を実行する。</li> </ul>

※市議会=予算案や行政案など、市長が提案した内容について話し合う場

- ・市長さんとか議員さんに言えばタブレットを使えるようにしてくれそうだね。
- ・手紙を書きたい。
- 「行ってみる?」 ・行く行く!
- ・実際に市役所に行って話を聞いてみたい。

小田原市役所の人に話を聞こう③

市役所の見学・講話(企画政策課)を聞く

見学の視点をもって市役所見学に臨み、市役所で働く人たちの立場や役割について意欲的に調べることができる。【関】【技】

資料や見学したことをもとに、議会政治のしくみや働きをつかむことができる。【知】

- ・「〇〇課」がたくさんあって、たくさんの人が働いていたね。
- ・あんなにたくさんの人が市民のために働いているんだね。
- ・予算673億円ってすごいね!
- ・タブレット買えそう。
- ・他のことにも使うんだよ。
- ・こんな大きなお金の使い道を決めているのが市長さんや議員さんなんだね。
- ・みんなから集めた「税金」だって言ってたよ。
- ・「税金」を使って「行政サービス」をしているって。
- ・「税金」って何? ・消費税? ・なんとなく知っているけど詳しくはわからないな。

税金って何?④

- ・消費税。
- ・ぼくたちも払ってるよね。
- ・10%に上がったよね。
- ・10%は高い。
- ・みんなのために使われるんだよ。
- ・行政サービスね。
- ・もっと高い国だってあるよ。
- ・他にはどんな種類があるの? ・どうやって集めるのかな? ・税の書道展のやつに載ってた!
- ・行政サービスって、どんなことに使われているの?

○税金の種類

国税	地方税
<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費税…買い物などをした人にかかる (7.8%/10% 6.24%/8%)</li> <li>・所得税…会社に勤めたり、自分で商売をしたりしている人にかかる</li> <li>・法人税…会社などにかかる など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方消費税…買い物などをした人にかかる (2.2%/10% 1.76%/8%)</li> <li>・住民税…そこに住んでいる人にかかる</li> <li>・入湯税…温泉に入った人にかかる など</li> </ul>

○税金の使い道 = 行政サービス

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校</li> <li>・教科書</li> <li>・図書館</li> <li>・市民会館</li> <li>・UMECO</li> <li>・城址公園</li> <li>・道路や橋の整備</li> <li>・救急車</li> <li>・警察</li> <li>・自衛隊の災害派遣</li> <li>・ごみの回収 など</li> </ul>
--

- ・税金が大切だってことは分かった。
- ・でも消費税 10%って高くない？
- ・くらしがよくなるならいい。
- ・何に使われているか知りたい。
- ・実際に何に使われるかが大事。

〈学習感想〉

- ・国の予算が 101 兆 4565 億円てすごい。
- ・ちゃんといい使い方してほしいと思う。

・国の税金も小田原市と同じように使い方を決めているのかな？

・国では誰が使い道を決めているのかな？

租税の役割を捉え、その必要性和実際の生活とを関連づけて考えることができる。【思・知】

国の税金の使い道って誰がどうやって決めているの？⑤⑥

三権分立等

- ・財務省って聞いたことあるよ。
- ・総理大臣が決めるんじゃない？
- ・市議会みたいに話し合ってるんじゃないかな。
- ・国会じゃないの？
- ・見たことある。
- ・市議会の国バージョンが国会じゃないの？

国民主権・三権分立などの国政のしくみについて整理する。

国の政治のしくみを捉える。【知】

- ・市とは少し違うけど、国でも税金の使い道は国会議員が話し合っで決めているんだね。
- ・消費税が上がったけど、その使い道も国会議員さんが決めてるってことだね。
- ・その国会議員さんは国民が選挙で選んでいるんだよね。
- ・国会にも行ってみたい。→2月に議事堂見学
- ・ちゃんとした人を選ばないとね。
- ・でも、どうやって選ぶの？
- ・「ちゃんとした人」って？→私たちの願いをかなえてくれる、私たちの意見を反映してくれる人だね。

まじめな人 熱心な人 自分の意見を持っている人 (公約・マニフェスト)

- ・どうすればちゃんとしてるか分かるの？
- ・見極めるの難しいよね。

どうすればちゃんとした議員さんを選べるの？⑦⑧

ポスター・チラシ・政見放送など

- ・ちゃんとした人ってどういう人？
- ・まず、悪い人じゃないか知りたいよね。
- ・経歴とか？
- ・見た目は？
- ・ポスターとかで見たよ
- ・なんとか党って書いてあるよね。
- ・議員さんになったらちゃんと自分たちの声を聞いてくれるか知りたい。
- ・公約を知りたい。
- ・議員さんになったらどうするのか知りたいよね。
- ・「マニフェスト」って聞いたことある。
- ・この間の選挙であいさつ運動してたよ。
- ・チラシとか配ってた。
- ・街頭演説もしてたよ。
- ・選挙カーでなんか言った。
- ・政見放送とか見てるよ。
- ・SNSで人となりも分かりそう。

知りたいことと知る方法を整理し、模擬投票につなげるようにする。

〈学習感想など〉

- ・私たちが投票できそうじゃない？
- ・子どもの話をちゃんと聴いてくれる人を選びたいよね。
- ・難しそうだけど18歳になったら投票できそう。
- ・投票してみたいと思った。
- 「ちょっとやってみる？」
- ・やってみたい！
- ・意外に簡単なんじゃないかな？

分かりやすくまとめた資料をもとに候補者を選ぶように準備する。

模擬投票をやってみよう⑦⑧

模擬選挙チラシ・投票用紙

選挙の意味について考え、話し合うことができる。【思】

〈学習感想など〉

・自分の一票で政治が決まると思うと、一票の重さを感じた。

- ・ぼくらにもできた！
- ・思ったよりも難しかった。
- ・模擬投票だったけど、結構真剣に考えた。
- ・マニフェストを読んでどの人が自分の願いをかなえてくれるか考えるのって、結構むずかしい。
- ・もっと分かりやすくしてくれたら投票しやすいと思う。
- ・本物だったら緊張しそう。
- ・~~夫人も自分たちみたいに悩んで投票しているのかも。~~
- ・本当の選挙ってどんな感じだろう。

実際の投票の様子や 2019 年参院選の投票率が分かる資料を提示する。

投票の様子・2019 年参議院選挙の年代別投票率

- ・投票率が 48.8% って低すぎない？
- ・クラスだと 18 人か 19 人で代表を決めるってことだよ。
- ・特に若い人が全然行ってないよ。
- ・時間がないとか？
- ・これでいいの？
- ・なんで投票に行かないんだろう？
- ・大切なことなのに…
- ・なんで選挙権は 18 歳に引き下げられたの？

資料から投票率の低さをつかみ、その問題点について考えることができる。【思・技】

どうして投票に行かないんだろう？⑨

- ・仕事とかが忙しいんじゃない？
- ・日曜日だよ！
- ・用事があったとか。←期日前投票があるじゃん。
- ・病気とかかも。
- ・面倒くさかったんじゃないの。←それはないでしょ。
- ・台風とか大雨の影響もあったって聞いたよ。
- ・投票したい人がいなかったのかも。
- ・誰がちゃんとした人か分からなかったのかもね。
- ・政治に関心がないんじゃないかな。

実際には…

- ・仕事があった。
- ・重要な用事があった。
- ・体調がよくなかった。
- ・投票所が遠かった。
- ・選挙に関心がない。
- ・政策や候補者のことがよく分からなかった。
- ・投票の仕方がよく分からない。
- ・投票したい候補者がいなかった。
- ・自分だけが投票しても結果は同じ。
- ・天候が悪かった。
- ・投票しても何も変わらない。
- ・今の政治のままでいいと思う。
- ・今の住所に選挙権がない。
- ・投票所に持っていく葉書をなくしてしまった。
- など

〈投票しやすくするための取り組み〉

利便性	一期日前投票	不在者投票	大学や商業施設等への投票所の設置	投票所への移動支援	など
分かりやすく	一政見放送	街頭演説	パンフレットなど	ホームページなど	コマーシャルなど

〈学習感想など〉

- ・投票しない理由がこんなにあるんだ。
- ・でも、言い訳っぽい。
- ・仕方ないのもあるよ。
- ・じゃあ選挙には行かなくてもいいの？
- ・いやいや、行かないと変な人が議員さんになっちゃうよ。
- ・ちゃんと投票しやすくしているのに行かない人が多い気がする。
- ・関心がないってどういうこと!?
- ・みんなが「自分だけが投票しても」って思ったら誰も投票行かないじゃん。
- ・「投票の仕方が分からない」とか、ぼくらにもできたのに!?
- ・ちゃんと投票に行かなきゃだめでしょ！
- ・面倒だって言う人たちは行かなくてもいいんじゃない？
- ・割合の問題だから、みんなが行かなくてもちゃんと選べればいいんじゃない？
- ・全員が行って、適当に投票する人がいたら変な人が議員さんになっちゃうんじゃない？
- ・それでも投票率が半分以下はひどいよ。
- ・投票率を上げないといけないと思う。

そもそも、なんで選挙をするの？

- ・自分たちの代表を選ぶためでしょ。
- ・国会で話し合うため。
- ・世の中は変わるんだから。それに合わせた政治をするためでしょ。
- ・今の政治でいいかどうかのチェックをしているんだよ。

本当に投票率って上げた方がいいの？⑩

- ・高齢者の投票率が高いんだ。
- ・若者の投票率が低いんだね。

【投票率を上げるべき】

- ・行かないといい議員さんを選べない。
- ・投票する人が少ないと国民の考えが政治に反映されない。
- ・若者の投票率を上げないと、高齢者のための政治になってしまう。
- ・若者の意見も政治に反映するためには、投票に行くことが必要。
- ・もっと若い人達にとってもいい政策が考えられる人が議員になるかもしれない。
- ・みんなが投票することがよりよい政治につながるはず。

【投票率を上げなくてもよい】

- ・みんなで行って適当に投票する人が増えたら、変な人が議員さんになっちゃうよ。
- ・全員行かなくても、半分くらいの人達がちゃんと投票して決めているんだからこのままでいい。
- ・実際、今、この投票率で問題なくみんな暮らせているんだから大丈夫。

高齢化が進む中で若者の声を政治に反映させるためだということに触れる



投票率が低いことの問題点と投票することの大切さについて考えることができる。【思・技】投票率が低いことへの問題意識をもち、どうすれば投票率を上げられるか考えをもつことができる。【思】

どうすれば投票率を上げられるだろう？⑪ (本時)

国別の選挙投票率

【行かれない人が行けるように】

- ・投票日じゃなくて、投票週間にする。
- ・24時間いつでも投票できるようにする。
- ・体の不自由な人は送り迎えをする。
- ・身近なところで投票できるようにする。  
コンビニ・駅・スーパーなど
- ・インターネットで投票できるようにする。

【行かない人が行くように】

- ・候補者のことをもっと分かりやすくする。  
←結構いろんな方法でアピールしていたけどな。
- ・投票に来たら何かあげる。
- ・お金とかポイントとか商品券とか。
- ・投票に行かなかったら罰則。

国別の選挙投票率が分かる資料を提示する。

- ・日本、低い!!
- ・なんでベトナムとかオーストラリアはあんなに投票率が高いのかな？
- ・罰金とかがあるんじゃない？
- ・行かないといけないってなっているんじゃないかな。

投票を義務化している国があることを知らせる。

- ・日本も投票を義務にすればいい。
- ・義務にすると、適当に投票する人が出てくると思う。
- ・数字だけ、投票率を上げればいってわけじゃない。
- ・権利なんだから、義務にするのはおかしい。

【義務化すべき】

- ・義務にすれば、投票率は高くなる。
- ・若い人も高齢者もみんな行くから、みんなのための政治ができるようになる。
- ・より多くの人々が政治に関心をもつようになると思う。

【義務化すべきでない】

- ・本当に誰も選びたくないときにも投票しないといけないのはおかしい。
- ・罰金があるから、義務だから投票するのではなく、ちゃんとした人を選ぶために投票すべき。
- ・適当な投票で選挙結果が左右される。
- ・選挙の大切さが分かっていたら、義務にする必要はない。

〈学習感想〉

- 投票率を上げることは大切だけど、投票することの大切さを知ることが大切だと思う。
- 投票が義務じゃなくて権利であることがいいと思う。
- 義務にすることで政治に関心をもてるのなら、義務化してもいいと思った。
- 義務であってもなくても、自分が大人になったら選挙に行きたい。
- 家の人に選挙に行くように言いたい。

|| 意欲的に話し合い、選挙に参加すること  
|| に対する関心を高めている。【関】  
|| 選挙の意味、投票することの大切さに  
|| ついて考えを深めている。【思】  
||

6. 本時について

(1) 本時目標 投票率を上げるためにはどうすればよいか、自分なりの解決方法を考えて友だちと話し合う中で、投票することの大切さについて考えを深め、「選挙に参加すること」に対する関心を高める。

(2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点◆評価【観点】
<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>どうすれば投票率を上げられるだろう？</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>&lt;行けない人へ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>投票週間</li> <li>投票日は休日</li> <li>24時間いつでも投票</li> <li>投票所を増やす 職場・コンビニ・スーパー・駅…</li> <li>移動式投票所</li> <li>いろんな投票方法 ネット・テレビ・郵便・メール・スマホ…</li> </ul> </div> <div style="width: 45%;"> <p>&lt;行かない人へ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新聞やテレビなどで知らせる 投票日・期日前投票・不在者投票…</li> <li>候補者をわかりやすく チラシ・ネット…</li> <li>何かあげる → 物をもらうために行くの？ お金・ポイント・商品券…</li> <li>法律にする(罰則) → 義務にする 罰金・水道を止める・税金を上げる…</li> </ul> </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> <p>参院選投票率 約 48.8%</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>国もいろいろ っているのに</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>資料：国別の投票率 オーストラリア 93.23% =義務</p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>義務にすべきなの？</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">義務にすべきでない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本当に選びたくないときもある</li> <li>適当な投票が出てくる</li> <li>ちゃんとした人を選ぶために投票すべき</li> <li>選挙の大切さが分かっていたら必要無い</li> <li>投票は権利で義務じゃない</li> <li>行けっといわれて行くものじゃない</li> </ul> </div> <div style="width: 45%;"> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">義務にすべき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>それで上手くいっている国</li> <li>投票率は絶対に上がる</li> <li>若い人も高齢者も行く→みんなのための政治</li> <li>義務だからこそ、<u>政治に関心をもつ</u></li> </ul> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>選挙の大切さを知ってもらう。</li> <li>政治に関心をもってもらう。</li> <li>自分にもものすごく関係あると分かってもらう。</li> </ul> </div> <p style="margin-top: 20px;">○「投票する」ということについて考えたこと</p>	<p style="text-align: center;">◆評価【観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の問いを資料をもとに確認する。</li> <li>「行けない人」への対策から「行かない人」への問題意識につなげていく。</li> <li>子ども同士で十分伝わりきらない意見は、質問をしたり、教え合ったりしながら進める。</li> <li>投票を義務にするという意見から焦点化を図る。資料は必要に応じて出す。</li> <li>数値的に投票率を上げるだけでなく、「何のために投票するのか」、「義務化することの意味は何か」を考えられるようにし、「投票の大切さ」「一票の重さ」に触れられるようにする。</li> <li>学習感想には、「投票するという事について考えたこと」を具体的に書くように伝える。</li> </ul> <p style="text-align: center;">◆意欲的に話し合い、選挙に参加することに対する関心を高めている。</p> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p> <p style="text-align: center;">◆選挙の意味、投票することの大切さについて考えを深めている。</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断】</p>